

がっ ど い りんぽかん
7月 土居隣保館カレンダー

にち 日	げつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金	ど 土
		1	2	3 入ロ-ニアロビ ック 10:00～	4	5
6	7	8	9 りんぽかんけんがく 隣保館見学 (蘭川小学校) 10:00～	10 入ロ-ニアロビ ック 10:00～	11	12
13	14 クラフト バンド教室 10:00～	15	16	17 入ロ-ニアロビ ック 10:00～	18	19
20	21 うみ ひ 海の日	22	23 じんけんざんだんかい 人権座談会 18:30～	24 入ロ-ニアロビ ック 10:00～	25	26 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00～
27	28	29	30	31		

いじめや虐待を受けていることを、なかなか大人に相談できない子どももいます。

恥ずかしいから、口止めされているから、自分さえ我慢すれば大丈夫だからなど、相談できない理由は様々です。

子どもがやっとの思いで打ち明けてくれたときは、「どうして今まで相談しなかったのか」と責めるような対応を取らず、「相談してくれてありがとう」と受けとめてあげてください。

ど い りんぽかんだよ
土居隣保館便り

ねん
2025年
7
がっごう
月号

はっこう ど いりんぽかん どいちょうふじわら
発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

じんけん ふくし かんがいけんしゅう
たかせ人権福祉センター 館外研修



がっこのか げつ かがわけんみ とよしたかせちょうない ほいくしよ ようちえん しょう ちゅうがっこう きょうしゅくいん
6月9日(月)に香川県三豊市高瀬町内の保育所、幼稚園、小・中学校の教職員

およ じんけんふくし しょうくいん かんがいけんしゅう ど いりんぽかん らいかん
及びたかせ人権福祉センターの職員が館外研修として土居隣保館に来館されました。

み とよし じんけんきょういくきょうざいしゅう しゅってん まね たんじょうかい ひと ね
三豊市人権教育教材集に出典されている「招かれなかったお誕生会」、「人の値う

ち」の作詞者である江口いとさんの思いを感じとる学習を行いました。学習では江口

ひさし てつこ みずか ひ さべつたいけん おも かた たいへんふか
久さんと徹子さんが自らの被差別体験やいとさんの思いを語ってくださり、大変深い

まな
学びになりました。

ごご ど いちゅうがっこう じんけん どうわきょういく じっせんほうこく しつぎおうとう じかん
午後からは土居中学校における人権・同和教育の実践報告があり、質疑応答の時間で

きょうしゅくいん せいと おも あつ はなしあ さいご どいちょうじんけん
は教職員が生徒を思っの熱い話し合いをすることができました。最後に土居町人権

せんげん けんがく い えぐちひさし せつめい き きねんしゃしん と
宣言のモニュメントを見学に行き、江口久さんの説明を聴き、記念写真を撮りました。

あらた まな つづ たいせつ かん いちにち
改めて学び続けることの大切を感じることができた一日になりました。



江口いとさんは、人権活動家であり詩人です。家族や自身が受けた差別体験をもとに、詩や講演を通じて、部落差別の不条理さ人権の大切さを訴え続けました。講演は40年間にわたり約3,000回にもおよびます。いとさんの詩や活動は現在も人権教育の現場で取り上げられ、その思いは今も多くの人々に受け継がれています。

○差別を許さない仲間をつくる

当時のいとさんの村には、家の手伝いや子守りなどで学校へ行くことができない子どもたちがたくさんいました。いとさんは我が子だけでなく、村の全ての子どもたちが健やかに育って欲しいと考えました。そして、1950年10月、自宅に村の子どもたちを集めて子ども会を発足しました。

○子どもの心を繋ぐ

子ども会では勉強をするだけでなく、遊びも取り入れ、人と人との絆を深め、差別に立ち向かっていく心を育てました。子どもたちは仲間として繋がっていききました。

いとさんが一人で始めた子ども会ですが、次第に学校の先生も参加するようになりました。子どもたちの未来を思い、いとさんが愛情いっぱい育てた子ども会は70年以上たった今も続き、子どもたちの仲間づくりの場となっています。

「生きることは」～江口いとさんの生涯～

8月末ころから江口いとさんの生涯を紹介する企画展示会を開催します。

今一度部落差別の原点を見つめ直す機会になれば嬉しいです。

○子の苦しみ

いとさんの子どもが高校卒業を迎える年になりました。いとさんは進学を強く望みましたが、「母にこれ以上苦勞をかけたくない。」と言って、就職を選びました。成績優秀だった子どもの就職をいとさんは心配していませんでした。しかし、次々と周りの友だちの就職が決まっても、子どもの就職は決まりませんでした。入社試験で良い成績をとっても、身元調査により不採用になり、何度も悔しい思いをしました。

やっとの思いで、子どものすばらしさを認めてくれる会社に就職が決まりました。会社では友だちもでき、楽しく勤務していました。しかし、会社で心無い差別を受けてしまいました。いとさんは、子どもを励ましましたが、子どもは長い間、憤り苦しみ続けました。そんな中、高校時代の先生が、新たな職場と生きる道を示してくれました。

○家族・仲間と共に

子どもは苦しみの中から立ち上がり、役場に就職し、差別をなくすために先頭に立つて活動続けました。そして、素晴らしい人と出会い、結婚しました。その後、差別を許さない仲間に支えられながら、温かい家庭を築くことができました。

○差別を許さない思いを全国に

いとさんは差別をなくすために日本全国をまわって自分の思いを訴えていきました。いとさんの講演にはたくさんの方が集まりました。いとさんは人を責めるのではなく、大きな愛で人々を包みしました。しかし、その根底には絶対に差別は許さないという強い思いがありました。多くの方が話を聞いて涙を流し、差別することの醜さを知り、生きることとは何なのか改めて考えるきっかけになりました。

※6月11日に開催した6年生交流会は土居隣保館便り8月号に掲載します。